

ISEポスチャポリシーの猶予期間とホットフィックスの実装と設定

内容

問題

不具合Cisco Bug ID CSCwo52494の修正を検証するために、Cisco ISE 3.4のプレリリースのホットフィックスまたは暫定エンジニアリングビルドへのアクセスが要求されました。この修正は、ポスチャポリシーごとに個別の猶予期間を適用することを目的としています。この修正はISE 3.4 Patch 8に含まれる予定でしたが、現在ISE 3.4 Patch 4を実行している環境で正式にパッチが利用可能になる前に検証が必要でした。

Cisco Bug ID CSCwo52494で対処されている特定の問題は、ポスチャポリシーが成功した場合でも、ISEが失敗したポスチャポリシーから期待どおりに最大猶予期間の値のみを送信するのではなく、誤って最大猶予期間の値を送信していたことです。

環境

- Cisco Identity Services Engine(ISE)3.4
- ISEポスチャ機能
- 現在のソフトウェアバージョン：ISE 3.4パッチ4
- ターゲットソフトウェアバージョン：ISE 3.4パッチ8 (正式な修正用)
- 不具合リファレンス：Cisco Bug ID CSCwo52494

解決方法

ISEポスチャポリシーの猶予期間の問題に対処するホットフィックスが提供されました。このホ

ットフィックスでは、ポスチャポリシーが成功した場合でも、ISEが誤って最大猶予期間の値を送信する動作が修正されました。

ホットフィックスの実装結果

ホットフィックスのインストール後、ISEは失敗したポスチャポリシーから最大猶予期間の値を正しく送信するようになりました。これは正常な動作です。システムは次のロジックを適切に実装します。

- デバイスが複数のポスチャポリシーに一致し、それぞれが異なる猶予期間を持つ場合、デバイスは失敗したポリシーで設定されている最大の猶予期間を受け取ります。
- 失敗したポリシーが2つ存在する場合、ISEは3.4バージョンで最大の猶予期間を選択します。

その他の機能拡張に関する情報

猶予期間の選択に対してより細かい制御を必要とする環境では、追加の拡張機能が確認されました。ISE 3.5 Patch 1以降では、失敗したポスチャポリシーの中から最大または最小の猶予期間を使用するかどうかを管理者が選択できるようにする、ポスチャの一般設定ページの新しいUIタイル設定が使用できます。この機能は、パッチを使用して3.4バージョンにバックポートすることはできません。Cisco Bug ID CSCwr60808で追跡されています。

原因

ポスチャポリシーが成功した場合でも、ISEが誤って最大猶予期間の値を送信したことが根本原因であると特定されました。期待される動作は、ISEが失敗したポスチャポリシーから最大猶予期間の値のみを送信することです。この動作は、Cisco Bug ID CSCwo52494で取り上げられています。

関連コンテンツ

- [ISE 3.4管理者ガイド – コンプライアンス](#)
- [Cisco Bug ID CSCwr60808](#)
- [Cisco ISE 3.5リリースノート](#)
- [シスコのテクニカルサポートとダウンロード](#)

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。